

ニホンジカ個体群保護管理に係る配布資料一式

一覧	通し番号
No. 1 個体数調整の実施状況	3- 9
No. 2 生息密度の推移	11-19
No. 3 GPS 首輪による個体移動状況調査について	21-28
No. 4 平成 20 年度モニタリング調査実施状況	29
No. 5 ニホンジカの生息密度の推移と個体数調整による捕獲数の関係について	31-38
No. 6 平成21年度個体数調整実施計画(案)	39-43
No. 7 新規捕獲手法の検討計画について	45-46
No. 8 平成 20 年度大台ヶ原・大杉谷ニホンジカ保護管理連絡会議概要について	47-48

## 平成 20 年度個体数調整実施状況

平成 20 年度の目標捕獲数は、平成 19 年度に引き続き、95 頭である。これまでの実施状況について各項目別に以下に記す。

### 1. 実施状況

平成 20 年度はこれまで、装薬銃による捕獲を 2 回、麻酔銃・アルパインキャプチャーによる捕獲を 5 回行った。また、くくりわなによる試験を行った。

表 1 装薬銃及び麻酔銃等による個体数調整実施状況

捕獲回	捕獲期間	方法	捕獲頭数
第一回	平成 20 年 4 月 19 日 ～平成 20 年 4 月 20 日 (2 日間)	装薬銃	8 頭 (オス 3, メス 5 頭)
第二回	平成 20 年 7 月 5 日 ～平成 20 年 7 月 8 日 (4 日間)	麻酔銃 アルパインキャプチャー	2 頭 (メス 2 頭)
第三回	平成 20 年 8 月 4 日 ～平成 20 年 8 月 13 日 (10 日間)	麻酔銃 アルパインキャプチャー	5 頭 (オス 3 頭、メス 2 頭)
第四回	平成 20 年 8 月 25 日 ～平成 20 年 8 月 29 日 (5 日間)	麻酔銃 アルパインキャプチャー	1 頭 (オス 1 頭)
第五回	平成 20 年 9 月 25 日 ～平成 20 年 10 月 3 日 (9 日間)	麻酔銃 アルパインキャプチャー	1 頭 (オス 1 頭)
第六回	平成 20 年 10 月 22 日 ～平成 20 年 10 月 28 日 (7 日間)	麻酔銃 アルパインキャプチャー	1 頭 (メス 1 頭)
第七回	平成 20 年 12 月 2 日 ～平成 20 年 12 月 4 日 (3 日間)	装薬銃	11 頭 (オス 4 頭、メス 7 頭)
計	40 日間		29 頭 (オス 12 頭、メス 17 頭)

表 2 くくりわなによる捕獲試験実施状況

捕獲回	捕獲期間	方法	捕獲頭数
第一回	平成 20 年 10 月 22 日 ～平成 20 年 10 月 28 日 (7 日間)	くくりわな (実際の捕獲を行わない 試験)	
第二回	平成 20 年 12 月 1 日 ～平成 20 年 12 月 10 日 (10 日間)	くくりわな (実際の捕獲を行う試験)	15 頭 (オス 6 頭、メス 9 頭)
計	17 日間		15 頭 (オス 6 頭、メス 9 頭)

## 2. 捕獲頭数

- 平成 20 年度の捕獲頭数は、くくりわなによる捕獲試験によるものを含め、平成 20 年 12 月 19 日現在、オス 18 頭、メス 26 頭、計 44 頭である。内訳は表 3 に示した。
  - メスを中心に捕獲することを目標としているが、オスの比率がやや高いのは、外見の性の判別が難しい幼獣を捕獲したためと、非選択的な捕獲となるアルパインキャプチャーでの捕獲によるところが大きい(表 4～5)。
  - 麻醉銃による捕獲頭数及び捕獲効率が大幅に低くなっている。目撃は正木峠～テラス下で多いものの、麻醉銃に対する警戒心が強く、射程まで近づくことが非常に困難であった。
  - 平成 20 年度の捕獲効率は、麻醉銃で 0.09、アルパインキャプチャーで 0.20、装薬銃 0.43 (頭/丁) となり、装薬銃の捕獲効率が最も高い結果となった。(表 8)。
- ※くくりわなによる試験捕獲の結果は資料 2-2 に記載。

表 3 平成 20 年度ニホンジカ捕獲状況 (単位: 頭)

捕獲回	成獣オス	成獣メス	幼獣オス	幼獣メス	計
第一回※1	1	5	2	0	8
第二回	0	2	0	0	2
第三回	3	2	0	0	5
第四回	1	0	0	0	1
第五回	1	0	0	0	1
第六回	0	1	0	0	1
第七回※1	3	6	1	1	11
くくりわな試験	5	7	1	2	15
計	14	23	4	3	44

※1: 装薬銃を使用

表 4 平成 20 年度ニホンジカの捕獲方法別捕獲状況 (単位: 頭)

捕獲回	麻醉銃				アルパイン キャプチャー				装薬銃				くくりわな			
	成 獣 オ ス	成 獣 メ ス	幼 獣 オ ス	幼 獣 メ ス	成 獣 オ ス	成 獣 メ ス	幼 獣 オ ス	幼 獣 メ ス	成 獣 オ ス	成 獣 メ ス	幼 獣 オ ス	幼 獣 メ ス	成 獣 オ ス	成 獣 メ ス	幼 獣 オ ス	幼 獣 メ ス
第一回	—	—	—	—	—	—	—	—	1	5	2	0	—	—	—	—
第二回	0	0	0	0	0	2	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—
第三回	0	2	0	0	3	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—
第四回	0	0	0	0	1	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—
第五回	0	0	0	0	1	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—
第六回	0	1	0	0	0	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—
第七回 (装薬銃)	—	—	—	—	—	—	—	—	3	6	1	1	—	—	—	—
くくりわな 試験	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	7	1	2
計	0	3	0	0	5	2	0	0	4	11	3	1	5	7	1	2

表 5 平成 20 年度 4 月装薬銃によるニホンジカの捕獲状況 (単位: 頭)

	成獣オス	成獣メス	幼獣オス	計	出動人数 (人)	捕獲効率 (頭/丁)
1 日目	1	1	1	3	11	0.27
2 日目	0	4	1	5	13	0.38
計	1	5	2	8	24	0.33

表 6 平成 20 年 12 月装薬銃によるニホンジカの捕獲状況 (単位: 頭)

	成獣オス	成獣メス	幼獣オス	幼獣メス	計	出動人数 ( ): 丁	捕獲効率 (頭/丁)
1 日目	1	4	0	0	5	8 (7)	0.57
2 日目	2	1	0	0	3	7 (6)	0.33
3 日目	0	1	1	1	3	8 (7)	0.43
計	3	6	1	1	11	23 (20)	0.55

回収不能個体 (メス 2) を含む。

表 7 平成 20 年度ニホンジカ捕獲方法別捕獲効率

捕獲回	麻酔銃 (頭/丁)	アルパインキャプチャー (頭/日)	装薬銃 (頭/丁)
第一回	—	—	0.33
第二回	0.00	0.50	—
第三回	0.20	0.30	—
第四回	0.00	0.20	—
第五回	0.00	0.11	—
第六回	0.14	0.00	—
第七回	—	—	0.55
計	0.09	0.20	0.43

表 8 平成 20 年度ニホンジカ捕獲方法別捕獲頭数および捕獲効率経年変化

	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
麻酔銃	18 (0.51)	35 (0.97)	34 (0.53)	21 (0.40)	16 (0.28)	15 (0.74)	3 (0.09)
アルパインキャプチャー	7 (0.20)	10 (0.28)	14 (0.22)	2 (0.04)	9 (0.16)	3 (0.16)	7 (0.20)
Box Trap	-	-	-	2 (0.04)	-	-	-
装薬銃	-	-	-	-	-	15 (0.44)	19 (0.43)
くくりわな試験	-	-	-	-	-	-	15 (0.5)
捕獲頭数合計 (頭)	25	45	48	25	25	33	44

( ) : 捕獲効率

麻酔銃、装薬銃の捕獲効率算出式 捕獲効率 = 捕獲数 / 銃丁数 \* 日

アルパインキャプチャー、BoxTrap の捕獲効率算出式 捕獲効率 = 捕獲数 / わな基数 \* 日

くくりわなの捕獲効率算出式 捕獲効率 = 捕獲数 / 作業員人数 \* 日

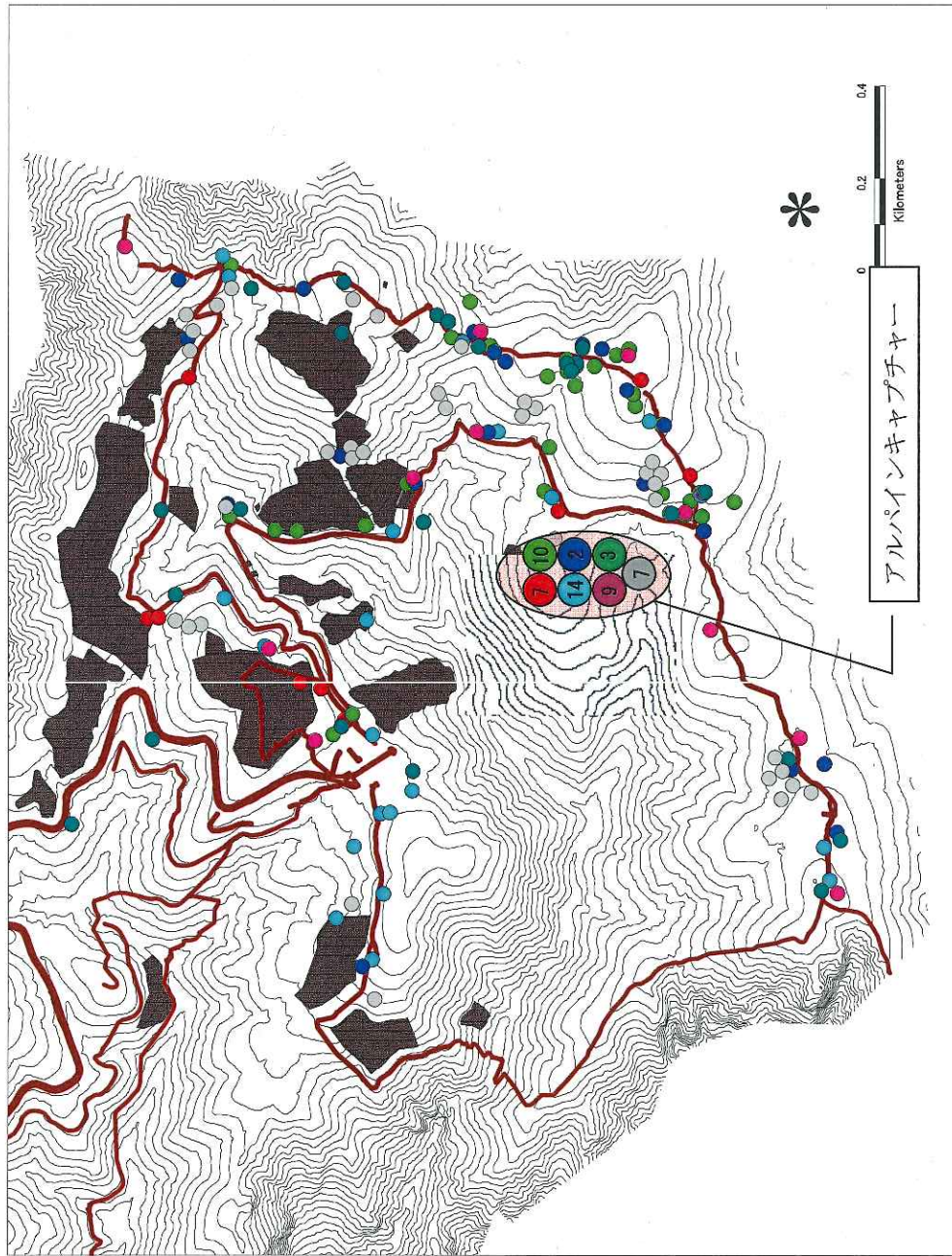


図 1 年度別捕獲位置 (平成 14 年～平成 20 年度)

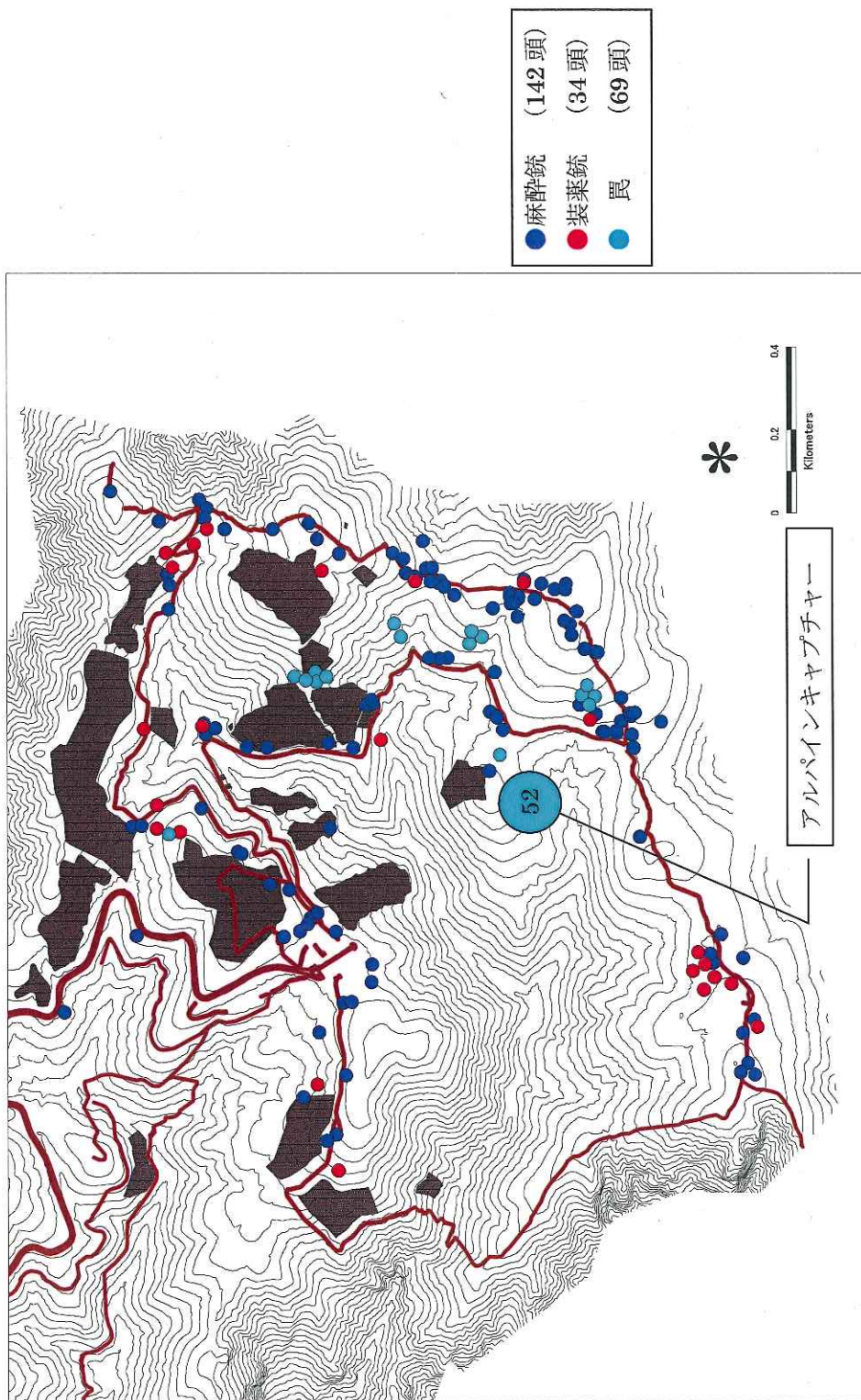


図 2 捕獲方法別捕獲位置 (平成 14 年～平成 20 年度)



## ニホンジカの生息密度の推移

## 1. 糞粒法

- 平成20年度調査は、10月6日から10月15日にかけて実施した。
- 調査方法は1kmメッシュ内で110コドラート(1m×1m)を設定し、糞粒数をカウントした。
- 生息密度の算出は、池田(2005)の計算式を用いた。
- 生息密度は緊急対策地区19.3頭/k<sup>2</sup>(n=14)、重点監視地区10.4頭/k<sup>2</sup>(n=3)であった。
- 全17地点の平均生息密度は17.7頭/k<sup>2</sup>であった。

表1 平成20年度生息密度調査結果(糞粒法)

計画地区	mesh-No	調査地点	植生(割合)		生息密度 (頭/k <sup>2</sup> )
			トウヒ・ミヤザサ	落葉広葉樹	
緊急 対策 地区	mesh-1	VII	0	82.5	5.3
	mesh-2		0	88.5	12.0
	mesh-3		19.2	76.9	3.5
	mesh-5 (N3)		0	81.6	0.7
	mesh-6	No.6	0	83	8.8
	mesh-7 (N4)	No.1	2.4	96.4	46.1
	mesh-9 (N5)	No.5	0	86.8	4.4
	mesh-10		0	92.3	11.2
	mesh-11	V	1	96.9	17.7
		VI			7.4
	mesh-12 (N6)	I	83.2	14.7	32.2
		II			31.9
		IV			-
	mesh-13		4.9	92.7	49.0
	mesh-14	III	53.6	46.4	39.8
	トウヒ・ミヤコザサ優占平均				
落葉広葉樹平均					15.1
平均(n=14)					19.3
重点 監視 地区	N7				16.1
	N9				7.3
	N10				7.9
	平均(n=3)				
平均(n=17)					17.7

注) 生息密度は、池田(2005)による計算値

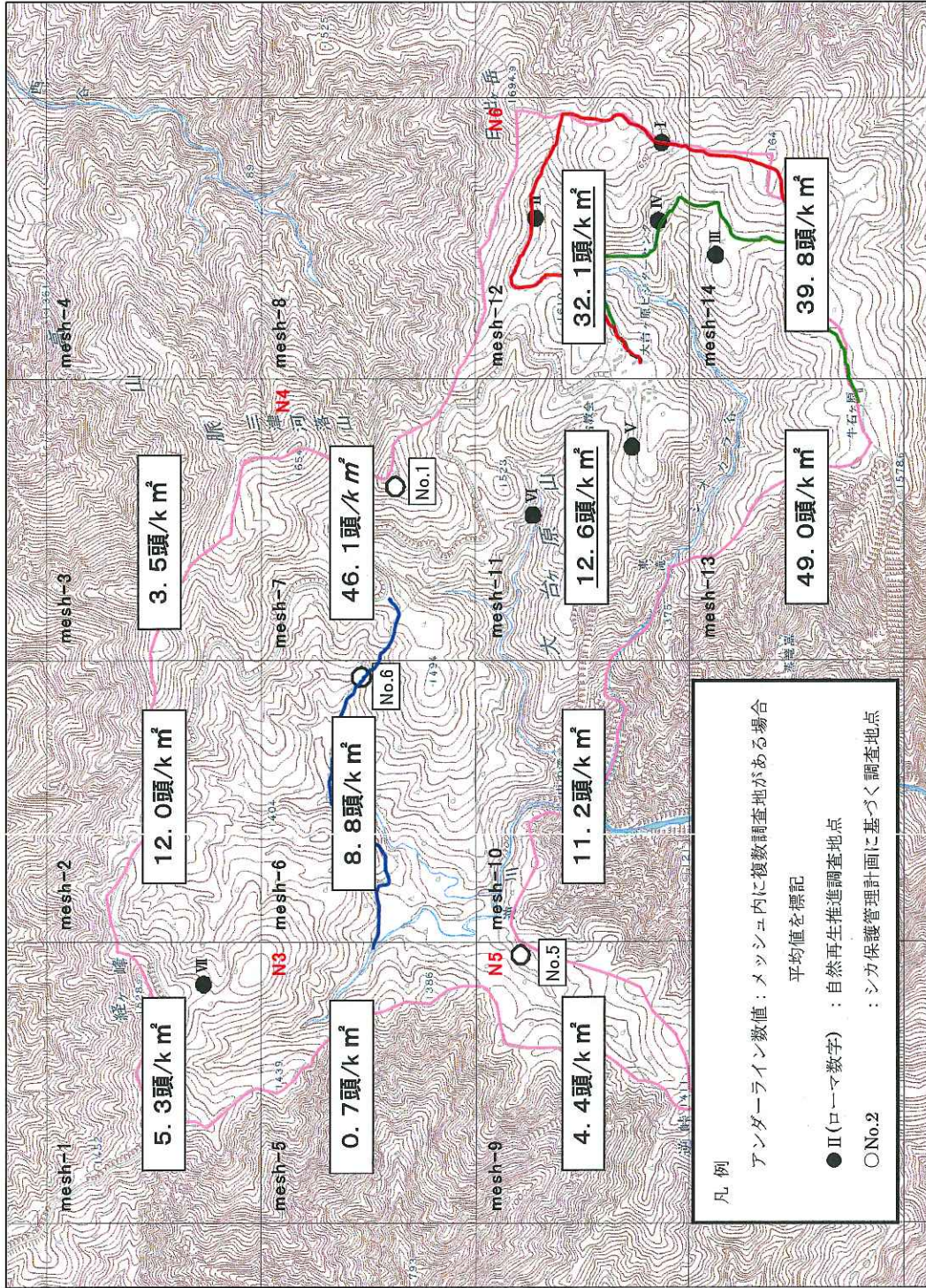


図1 平成20年度緊急対策地区区生息密度調査結果位置図(糞粒法)注)生息密度は、池田(2005)による計算値

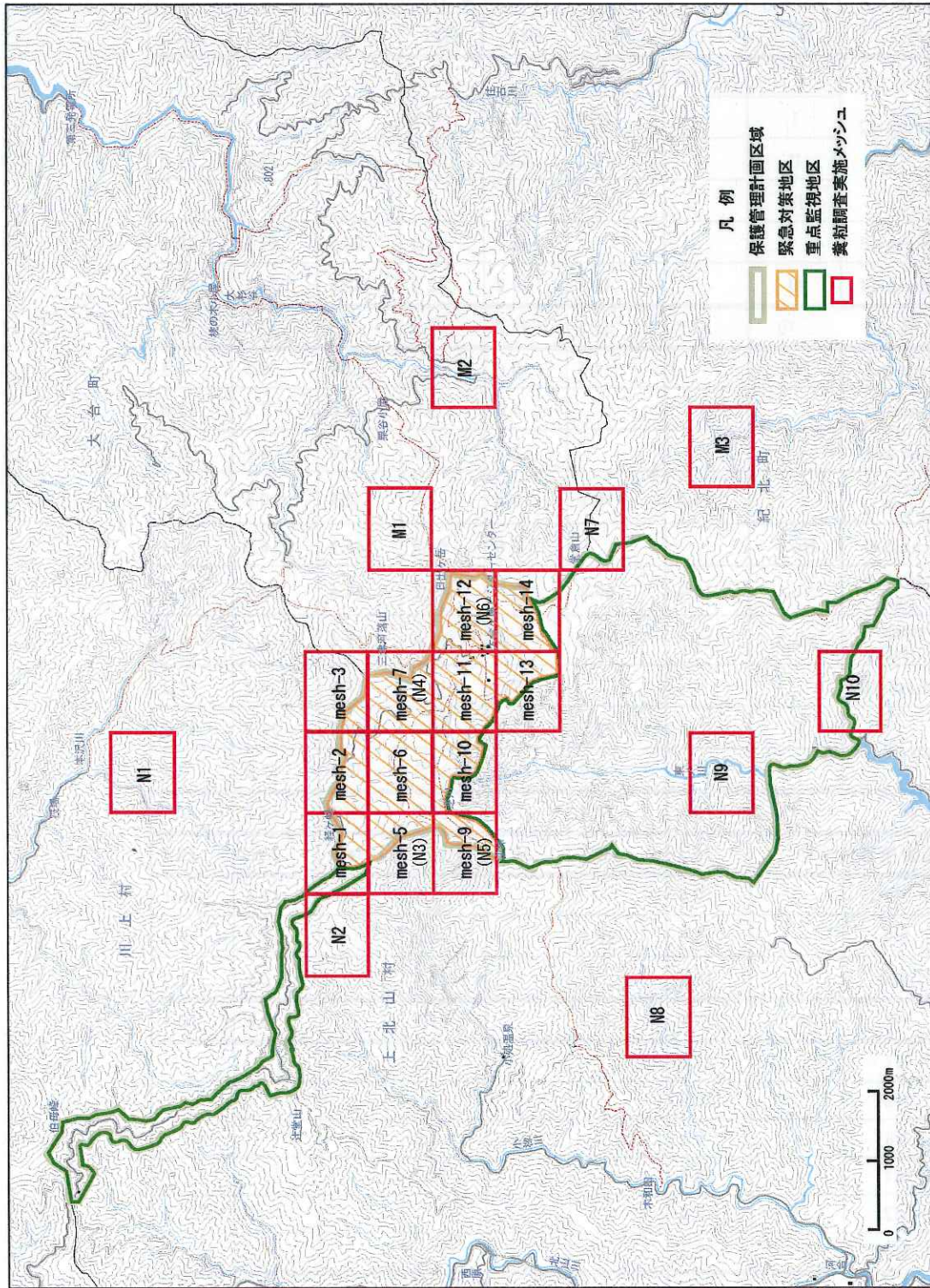


図2 平成20年度重点監視地区生息密度結果位置図(養粒法)(周辺地域) (注) 生息密度は、池田(2005)による計算値

表2 同一地点・メッシュにおける生息密度調査結果（糞粒法）

対象区域	調査メッシュ※1	調査地点※2	生息密度（頭/k m <sup>2</sup> ）							
			H13	H15	H16	H17	H18	H19	H20	
緊急対策地区	東大台地区	mesh-12 (N6)		67.2	117.2					
			I		75.4	178.9	55.3	78.0	48.7	32.2
			II		40.2	40.0	108.9	60.9	48.5	31.9
			IV		51.7					
		mesh-13				118.7	61.5	93.5	59.5	49.0
		mesh-14	III		43.2	29.2	32.4	52.6	71.1	39.8
		平均		67.2	65.5	91.7	64.5	71.3	57.0	38.2
	西大台地区	mesh-1	VII		4.6	0.6	3.8	12.9	0.9	5.3
		mesh-2				4.0	9.8	13.6	5.1	12.0
		mesh-3				2.7	2.3	11.0	4.1	3.5
		mesh-5 (N3※1)		14.5	18.2	0.7	9.9	2.6	0.5	0.7
		mesh-6	No.6			6.6	66.9	15.9	16.9	8.8
		mesh-7 (N4)	No.1	12.9	69.7	119.9	93.2	64.6	58.0	46.1
		mesh-9 (N5)	No.5	11.3	15.6	4.8	18.6	11.4	6.1	4.4
		mesh-10				7.6	12.6	17.6	4.2	11.2
		mesh-11	V		92.5	23.4	29.7	48.2	34.1	17.7
			VI		8.0	4.8	12.3	32.2	17.0	7.4
	平均		12.9	34.8	17.5	25.9	23.0	14.7	11.7	
	緊急対策地区平均			26.5	48.8	38.7	36.9	36.8	26.8	19.3
	重点監視地区	N7		10.5			7.9		13.4	16.1
N9			5.9	20.2		8.6		13.2	7.3	
N10			16.4			16.8		2.1	7.9	
平均			10.9	20.2		11.1		9.6	10.4	
周辺地区	N1		27.6			0.6				
	N2		10.9							
	N8		0.1			1.0				
	M1		38.8			78.7				
	M2		12.6							
	M3		23.6							
	平均		18.9			26.8				

生息密度は池田（2005）による計算値

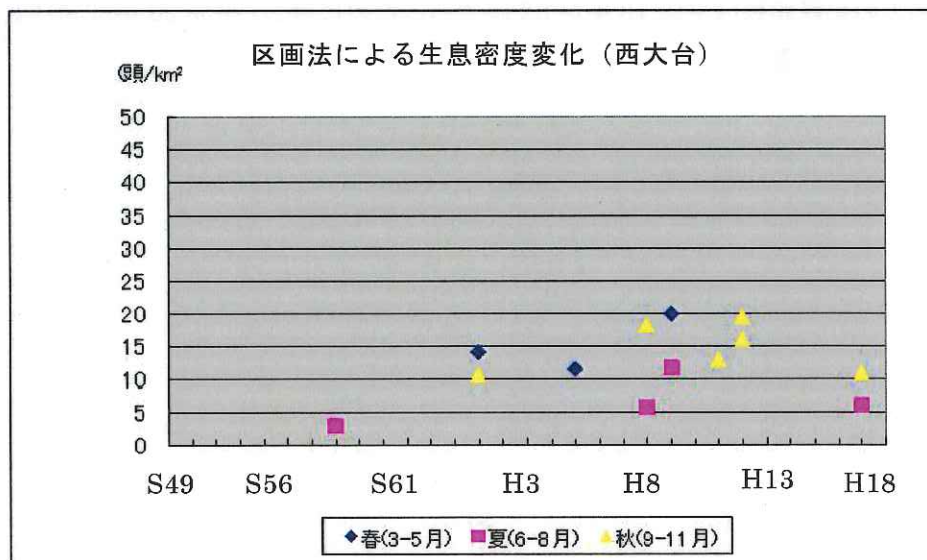
※1 調査メッシュの単位は3次メッシュ（約1km×1km）である。重点監視地区および周辺地区で使用しているN1～N10、M1～M3は、ニホンジカ保護管理計画（第1期）で設定した番号であり、Nは奈良県、Mは三重県を示している。緊急対策地区については、大台ヶ原自然再生推進計画との整合性を図るため、ニホンジカ保護管理計画（第2期）から、新たにメッシュ番号を付した。

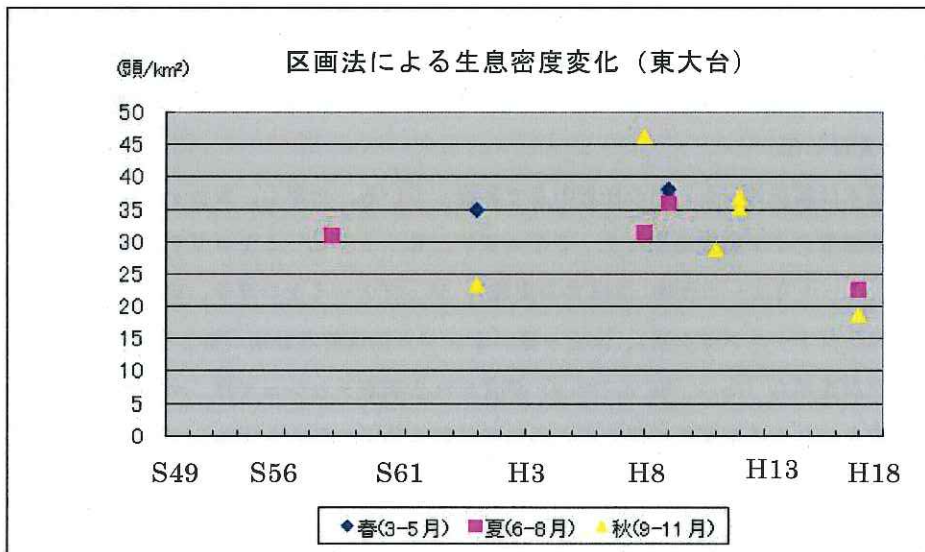
※2 調査は、基本は調査メッシュ内の任意の点で実施している。ただし、大台ヶ原自然再生推進計画の各種生タイプ調査地点（Ⅰ：ミヤコザサ、Ⅱ：トウヒーマヤコザサ、Ⅲ：トウヒークケ疎、Ⅳ：トウヒークケ密（H15のみ実施）、Ⅴ：ブナーミヤコザサ、Ⅵ：ブナースズタケ疎、Ⅶ：ブナースズタケ密）、大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画（第2期）の植生モニタリング調査地点（No.1、No.5、No.6）が含まれる調査メッシュでは、ニホンジカの生息密度が植生に与える影響を把握するために同じ調査地点で調査を実施している。

- 東大台地区の生息密度は平均で 38.2 頭/k m<sup>2</sup>(n=4)、これまでの調査の中でもっとも低い値を示した。
- 西大台地区では平均 11.7 頭/k m<sup>2</sup>(n=10)で、これまでの調査の中でもっとも低い値を示した。
- 東大台地区、西大台地区ともに平成 19 年に引き続き低い値を示した。

## 2. 区画法

- 基本的に横ばい傾向だが、1990年代にピークを迎えたのち漸減傾向





### 3. ルートセンサス

#### ◆平成 20 年度

- 調査は東大台 2 ルート (No1、2)、西大台 2 ルート (No.3、4) の 4 ルートで実施した。
- No.1~3 は徒歩、No.4 は、車を用いた調査を行った。
- 調査は平成 20 年 10 月 22 日~26 日のうち 2 夜間で実施した。
- 最も多くのシカが確認できたのは平成 19 年同様ルート 2 であったが、2 日間での記録頭数は平成 19 年が 82 頭であったのに対し、平成 20 年は 38 頭であった (表 3)。

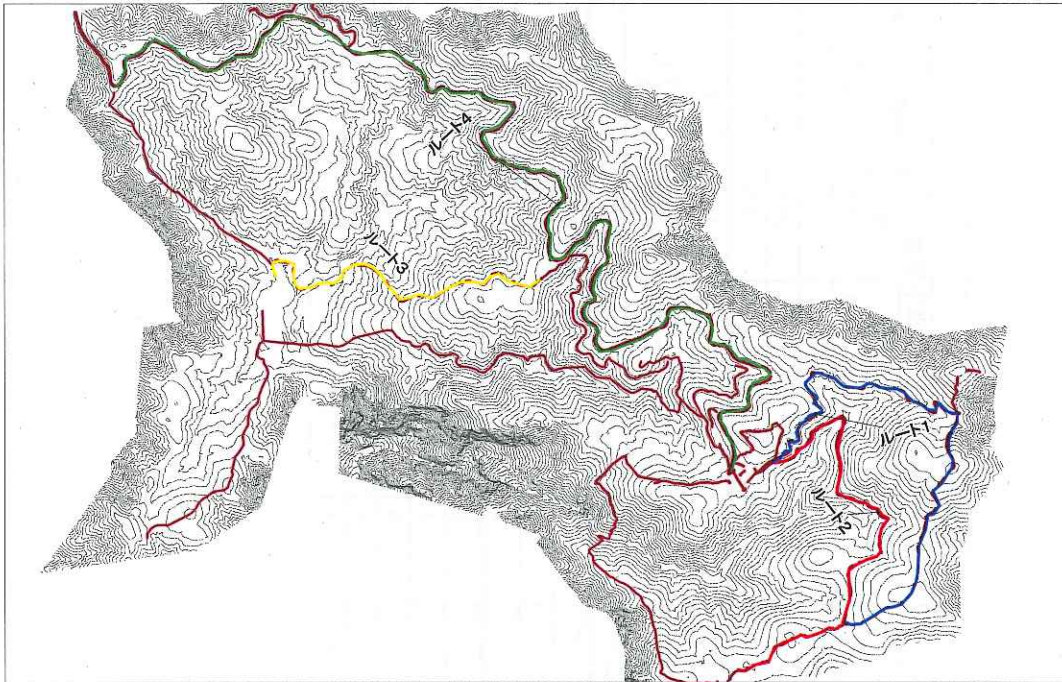


図 1 センサスルート

(— : ルート1、— : ルート2、— : ルート3、— : ルート4)

◆ 経年変化

- 平成8年度を100とした場合の指標の推移は平成8年から平成15年まで減少し、その後増減を繰り返しながら横ばいの傾向を保っている。

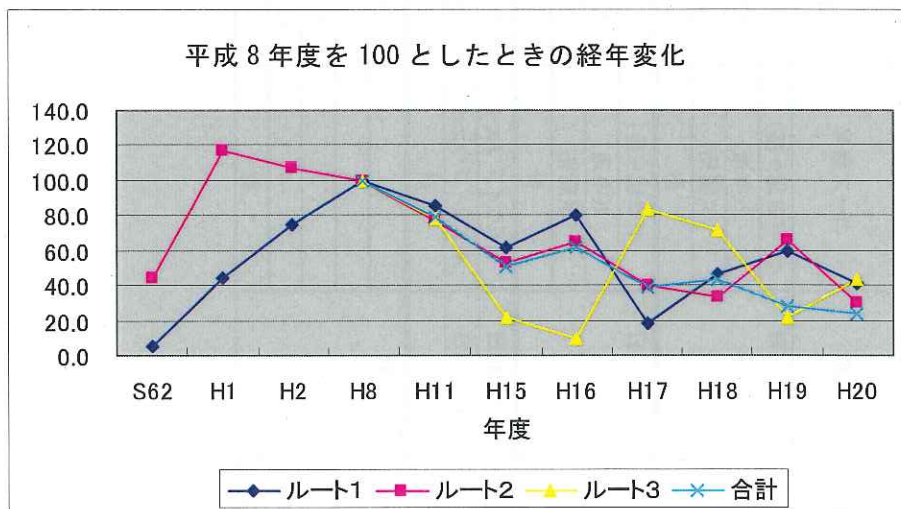


図 2 ルートセンサスの指標推移

表3 平成20年度のルートセンサス実施結果

年度	月日	コース番号	コース長 (km)	観察頭数										生息指標 (頭/km)
				オス		メス		仔		識別頭数		不明	計	
				頭数	100♀	頭数	100♀	頭数	100♀	頭数	(%)			
平成20年	10月25日	1(日出ヶ岳)	2.75	2	33.3	6	2	33.3	10	62.5	6	16	5.8	
		2(中道)	2.67	3	21.4	14	2	14.3	19	70.4	8	27	10.1	
		3(開拓)	1.71	1	—	0	—	—	1	20.0	4	5	2.9	
		計	7.13	6	30.0	20	4	20.0	30	62.5	18	48	6.7	
	11月20日	1(日出ヶ岳)	2.75	3	150.0	2	0	0.0	5	33.3	10	15	5.5	
		2(中道)	2.67	2	40.0	5	0	0.0	7	63.6	4	11	4.1	
		3(開拓)	1.71	1	50.0	2	0	0.0	3	33.3	6	9	5.3	
		計	7.13	6	66.7	9	—	—	15	42.9	20	35	4.9	
	10月22日	4(ドライブウェイ)	6.40	3	300.0	1	1	100.0	5	83.3	1	6	0.9	
	10月24日	4(ドライブウェイ)	6.40	1	11.1	9	2	22.2	12	85.7	2	14	2.2	
		計	12.80	4	40.0	10	3	30.0	17	85.0	3	20	1.6	
		合計			5	62.5	8	2	25.0	15	48.4	16	31	5.6
					5	26.3	19	2	10.5	26	68.4	12	38	7.1
					2	100.0	2	0	0.0	4	28.6	10	14	4.1
				4	40.0	10	3	30.0	17	20.5	3	83	6.5	
				16	41.0	39	7	17.9	62	37.3	41	166	6.1	



## 【参考】生息密度の推移の比較

### (1) ルートセンサスと糞粒法による推移の比較

ルートセンサスによる指標をルートセンサスに対応するメッシュにおける糞粒法指標と対比し、経年変化について比較を行った。

表4 ルートセンサスのルートとメッシュの対応

ルート	対応するメッシュ
1(日出ヶ岳)	mesh12、mesh14
2(中道)	mesh12、mesh14
3(開拓)	mesh6

- ルート1(日出ヶ岳)、ルート2(中道)に対応するメッシュ(mesh12、mesh14)の生息密度の推移はほぼ横ばい～漸減していた。平成16年までは両指標の増減の傾向は類似したが、平成18年から平成19年にかけての傾向は一致しなかった。
- ルート3(開拓)に対応するメッシュ(mesh6)の生息密度の推移は、平成18年まではルートセンサスの増減の傾向と類似したが、平成18年から平成19年にかけての傾向は一致しなかった。

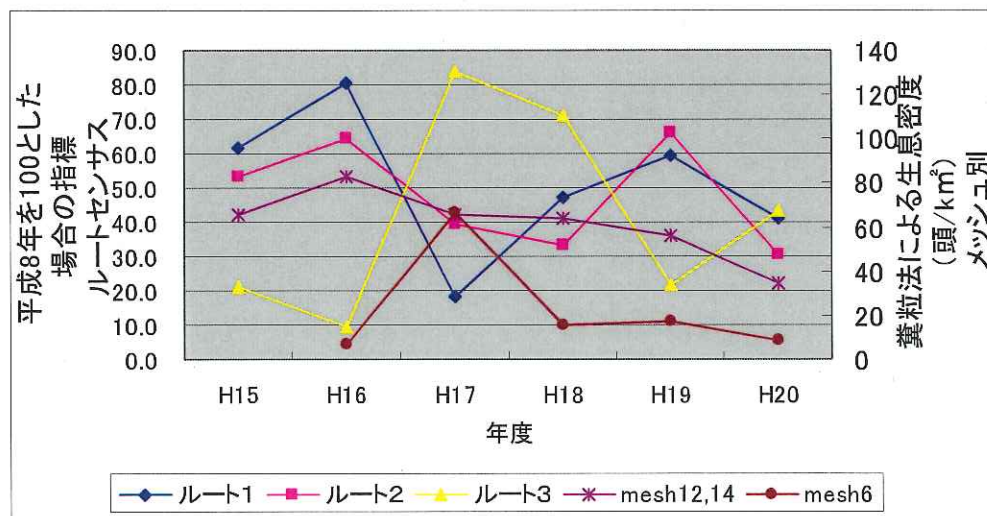


図3 ルートセンサスの指標推移と糞粒法による生息密度の推移

### (2) 指標の比較に際しての留意点

生息密度の増減傾向を的確に把握するためには、複数の指標による比較検討は有効であると考えられる。しかしながら、今回比較の対象にしたルートセンサス指標は観察数が少ない場合の変動幅が大きくなること等、糞粒法による生息密度の増減傾向と比較する場合には慎重に判断する必要がある。

## GPS 首輪による個体移動状況調査について

### 1. 平成 20 年度 GPS 首輪の装着状況

平成 17 年度から、人工衛星を利用した測位システム（GPS 首輪）を導入し、行動圏把握を行っている。平成 17 年度に東大台で 4 個体、平成 19 年度に西大台で 3 個体に装着しており、平成 20 年度は西大台で 4 個体に装着済みである。

表 1 大台ヶ原におけるニホンジカへの GPS 首輪の装着状況

年度	個体 ID	地域	装着日	装着状況 (装着日数)	データ 回収状況	備考
平成 17 年度	584	東大台	7 月 24 日	脱落済み (325 日)	平成 18 年 6 月 14 日 回収済み	
	585	東大台	7 月 21 日	脱落済み (322 日)	平成 18 年 6 月 14 日 回収済み	
	586	東大台	7 月 21 日	脱落済み (322 日)	平成 18 年 6 月 14 日 回収済み	
	587	東大台	6 月 23 日	脱落済み (427 日)	平成 18 年 8 月 24 日 回収済み	
平成 19 年度	1569	西大台	11 月 17 日	装着中	平成 20 年 12 月 8 日 一部回収済み	
	1570	西大台	11 月 18 日	装着中	平成 20 年 12 月 8 日 一部回収済み	
	5872	西大台	12 月 2 日	装着中	未回収	ロス ト中
平成 20 年度	5852	西大台	8 月 11 日	装着中	未回収	
	5862	西大台	8 月 12 日	装着中	未回収	
	5842	西大台	10 月 1 日	装着中	2008 年 12 月 8 日 一部回収済み	
	1758	西大台	10 月 2 日	装着中	未回収	

※性別はすべてメス成獣

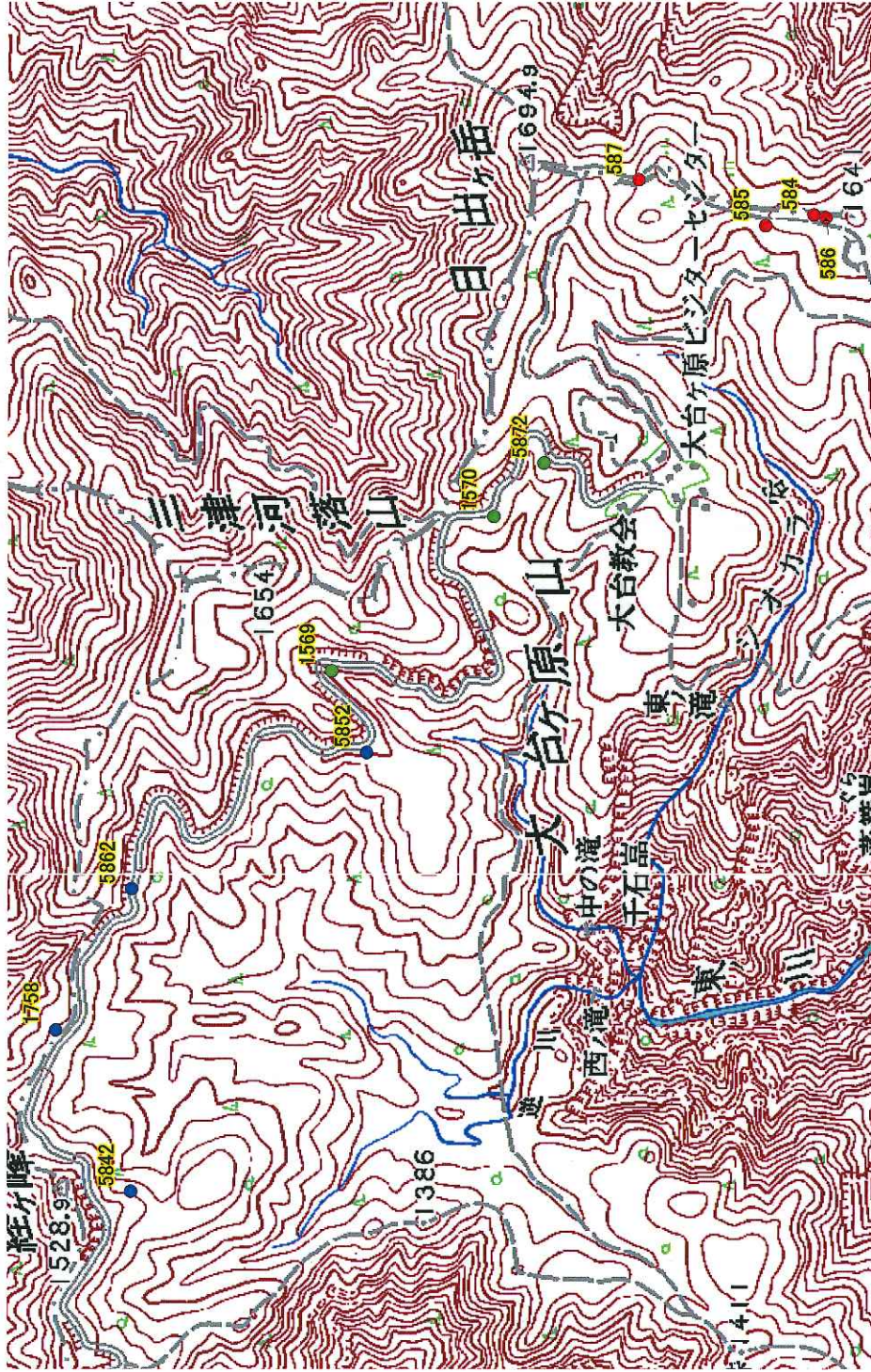


図1 GPS首輪個体捕獲位置 (●:平成17年度捕獲、●:平成19年度捕獲、●:平成20年度捕獲)

注) その場放獣のため放獣位置は同上

## 2. GPS 首輪装着個体の行動特性

### (1) 平成 17 年度装着個体 (図 2、ID584～587)

東大台地区において 4 頭装着。(データ回収済み)

- ・ 3～11 月 : 大台ヶ原地域に滞留
- ・ 12 月 : 低標高地域に移動 (移動先 : 三重県側尾根、東ノ川)
- ・ 1～2 月 : 低標高地域に滞留
- ・ 2 月 : 大台ヶ原地域に移動

### (2) 平成 19 年度装着個体 (図 2、ID1569、1570)

西大台地区において 3 頭装着。(2 頭から一部データを回収、1 頭は生存状況を含め未確認)

- ・ 4～12 月 : 大台ヶ原地域に滞留
- ・ 12～1 月 : 低標高地域に移動 (三重県側尾根、東ノ川)
- ・ 1～3 月 : 低標高地域に滞留
- ・ 3 月下旬 : 大台ヶ原地域に移動

### (3) 平成 20 年度装着個体

西大台にて 4 頭装着。(1 頭から一部データを回収したが、機材動作の不良等の可能性あり。)

### (4) GPS 情報の活用例

～登山道周辺の時間帯別利用状況 (表 2、表 3、図 3) ～

- ・ すべての個体で、0 時、4 時、20 時の時間帯における利用度が高い
- ・ すべての個体で、12 時における利用度が低い
- ・ ビジター～日出ヶ岳および尾鷲辻～牛石ヶ原の登山道周辺において夜間の利用が多い (図 4、図 5)

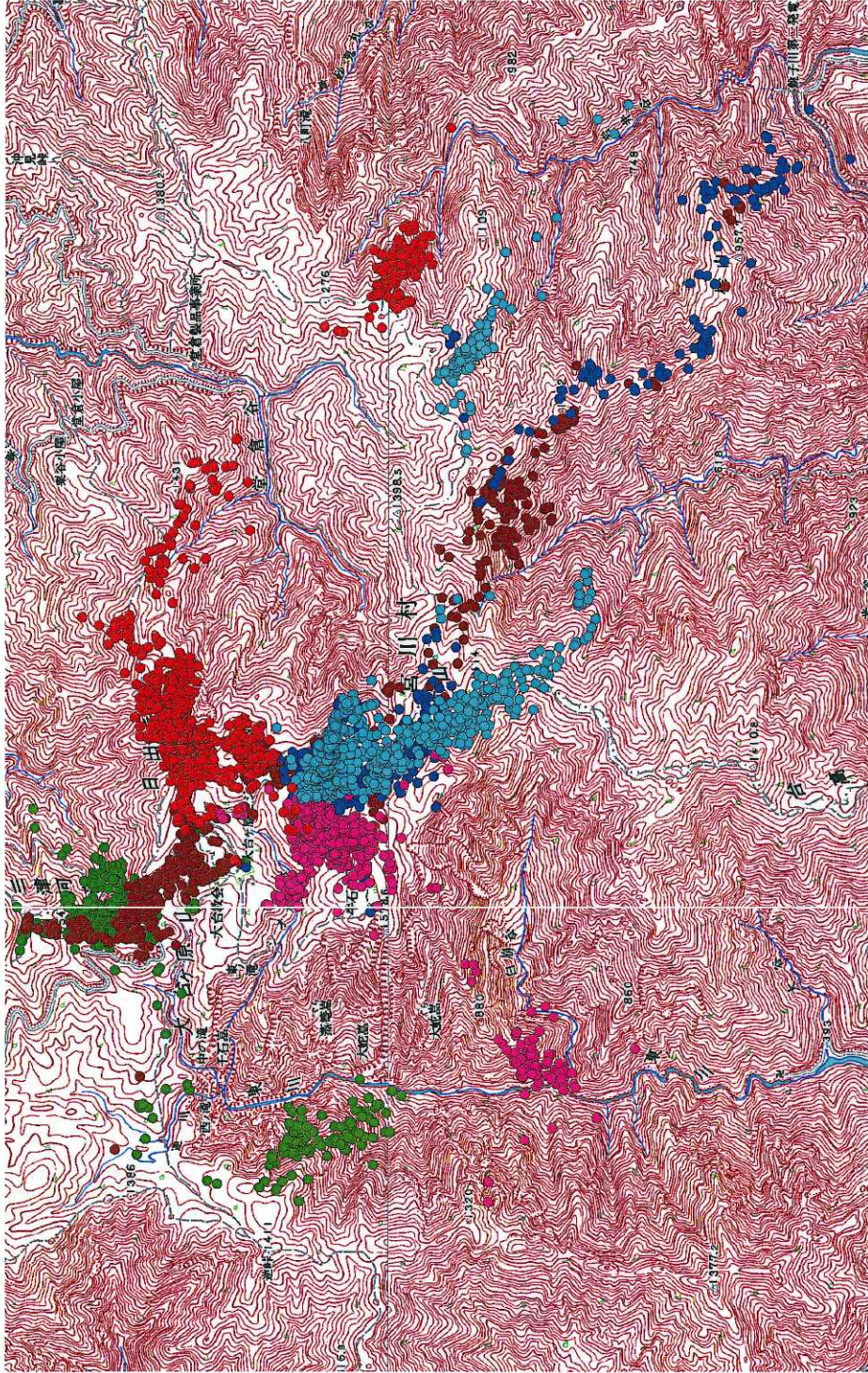


図 2 平成 17、平成 19 年度 GPS 首輪装着個体の移動状況(精度補正後の全測位点を使用)

- 東大台 ● : ID 584、● : ID 585、● : ID 586、● : ID 587  
 西大台 ● : ID 1569、● : ID 1570

表2 平成17年度GPS装着個体による道沿い50mの月別利用状況(ポイント数)

※6回/日、4時間ごとに測位(補正後の測位率61~67%)

ID0584	0時	4時	8時	12時	16時	20時
2005年7月	2	3	1	3	4	2
8月	14	7	0	5	8	8
9月	7	7	2	0	3	8
10月	13	4	2	0	0	11
11月	9	10	1	0	0	5
12月	1	3	0	0	2	1
2006年1月	0	0	0	0	0	0
2月	8	7	5	1	2	4
3月	6	6	3	5	5	7
4月	15	11	4	8	9	15
5月	19	18	2	3	8	25
合計	94	76	20	25	41	86

ID0585	0時	4時	8時	12時	16時	20時
2005年7月	3	3	1	2	4	3
8月	6	5	0	5	12	13
9月	15	10	1	2	5	14
10月	6	1	3	0	1	12
11月	9	3	0	0	2	6
12月	1	1	0	0	0	1
2006年1月	0	0	0	0	0	0
2月	4	4	1	1	5	2
3月	6	4	4	0	2	7
4月	9	8	1	0	2	10
5月	12	19	4	0	2	13
合計	71	58	15	10	35	81

ID0586	0時	4時	8時	12時	16時	20時
2005年7月	1	3	0	0	0	0
8月	6	6	0	0	0	7
9月	1	2	0	0	0	3
10月	0	0	0	0	0	0
11月	1	4	0	0	0	0
12月	0	1	0	0	0	0
2006年1月	0	0	0	0	0	0
2月	5	4	2	0	1	1
3月	3	4	3	1	5	1
4月	15	12	1	2	3	13
5月	9	4	1	0	1	6
合計	41	40	7	3	10	31

ID0587	0時	4時	8時	12時	16時	20時
2005年6月	0	0	0	0	1	1
7月	14	13	9	7	20	21
8月	7	9	1	4	10	13
9月	6	4	2	0	2	7
10月	5	6	1	1	5	11
11月	11	13	2	0	9	13
12月	1	2	2	0	0	3
2006年1月	0	0	0	0	0	0
2月	3	1	1	0	1	0
3月	10	7	6	0	4	6
4月	16	15	9	6	5	20
5月	14	14	7	4	12	17
6月	11	8	7	2	9	7
7月	14	14	11	9	14	16
8月	4	4	2	9	8	7
合計	116	110	60	42	100	142

表3 平成19年度GPS装着個体による道沿い50mの月別利用状況(ポイント数)

※6回/日、4時間ごとに測位(補正後の測位率65~67%)

ID1569	0時	4時	8時	12時	16時	20時
2007年11月	0	1	0	1	0	0
12月	3	6	6	3	1	5
2008年1月	2	3	0	1	3	1
2月	0	0	0	0	0	0
3月	2	2	0	0	1	3
4月	10	9	0	0	1	9
5月	7	5	0	0	0	4
6月	6	3	0	0	0	10
7月	0	0	0	0	0	0
8月	1	1	2	1	0	4
9月	2	6	1	0	1	6
10月	8	8	1	3	1	7
11月	1	0	0	0	0	0
12月	1	1	0	0	0	1
合計	43	45	10	9	8	50

ID1570	0時	4時	8時	12時	16時	20時
2007年11月	5	6	3	1	2	7
12月	10	11	8	3	7	12
2008年1月	5	5	7	1	2	5
2月	0	0	0	0	0	0
3月	9	9	4	4	1	7
4月	24	17	9	8	8	19
5月	19	22	6	3	8	19
6月	21	20	13	11	14	24
7月	21	16	8	5	13	14
8月	16	14	14	5	6	19
9月	17	12	9	6	11	20
10月	16	20	7	13	12	24
11月	16	21	6	5	9	22
12月	7	6	3	5	5	5
合計	186	179	97	70	98	197

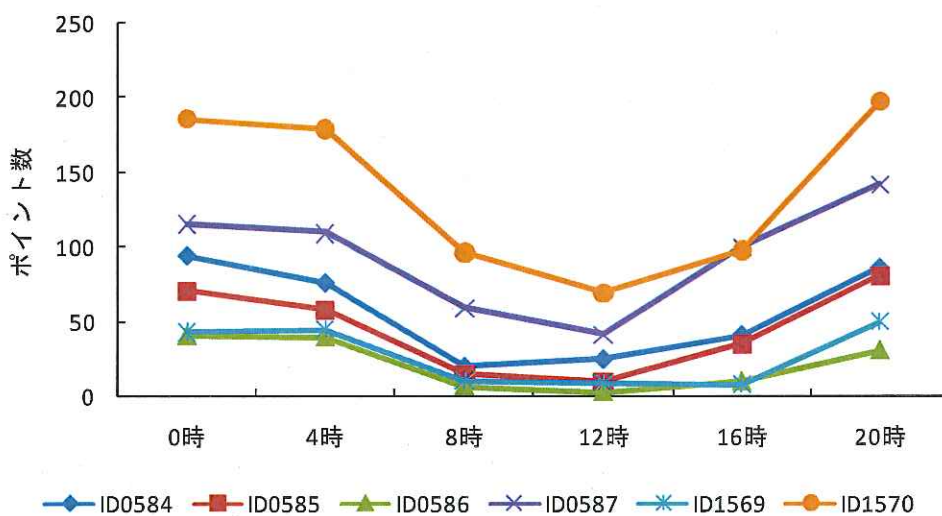


図3 GPS装着個体による道沿い50mの時間帯別利用状況

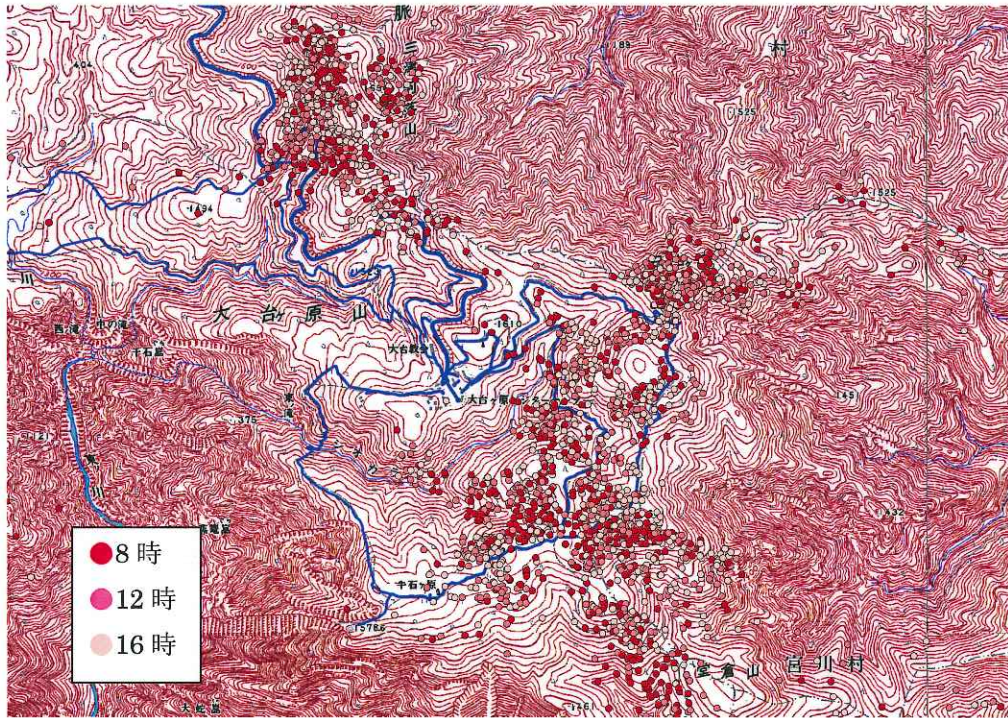


図4 GPS装着個体の昼間の利用状況

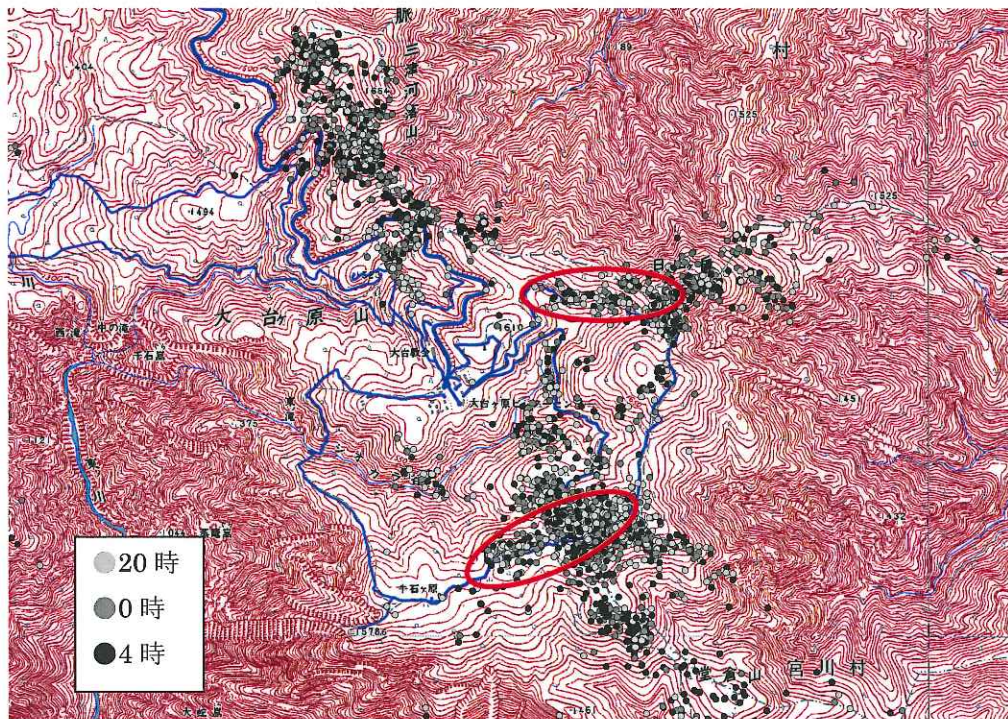


図5 GPS装着個体の夜間の利用状況

※○は昼間に比べ登山道を頻繁に利用している場所



### 3. 平成 21 年度の GPS 首輪装着等予定

#### (1) GPS 首輪の装着

平成 21 年度には、平成 19 年度に装着した GPS 首輪が脱落する予定である。脱落予定である 5 月前後に首輪、データの回収を行う。回収できた GPS 首輪 (2~3 機) 及び必要に応じて新規に首輪を購入し、主に西大台で GPS 首輪の装着を行う (検討状況に応じて、測位時間間隔を変更した東大台での装着等も行う)。

#### (2) GPS 首輪から回収されたデータの解析

平成 17 年度、平成 19 年度、平成 20 年度に装着した GPS 首輪情報から、今後のニホンジカ個体数調整等への情報活用を図るため、2. (4) で示した内容以外に、季節別・時間帯別の利用場所についての環境解析を行う。

## 平成 20 年度モニタリング調査実施状況

ニホンジカ保護管理計画に基づき、モニタリングを実施する。平成 20 年度に実施するモニタリング項目は以下のとおりである。

表 1 モニタリング調査項目（平成 20 年度実施項目に網掛け）

	調査対象地区	調査項目	調査頻度	
植生状況調査	緊急対策地区	植生への影響の把握	上層（1.3m以上） ・ 毎木調査 ・ 剥皮の有無と程度 ・ 枯死木の有無 等	上層：1回/5年
			下層（1.3m未満） ・ 草本の草丈、被度・群度 ・ 木本の実生や稚幼樹の樹高・被度・群度 等	下層：毎年
	重点監視地区	植生への影響の把握	調査区は防鹿柵の内外を含めて設置し、効果を検討する。 ・ 緊急対策地区では、ササの分布や実生の密度についても調査する。	上層：1回/5年
				下層：毎年
	周辺部	植生への影響の把握	調査区は防鹿柵の内外を含めて設置し、効果を検討する。 ・ 緊急対策地区では、ササの分布や実生の密度についても調査する。	上層：1回/5年
				下層：1回/5年
生息状況調査	緊急対策地区	生息密度の把握	糞粒法	毎年
			区画法	1回/5年
			ルートセンサス	毎年
	緊急対策地区	行動域調査	テレメトリー法（GPS 発信機）	毎年
		捕獲個体調査	捕獲個体の繁殖および栄養状態に関するデータを収集する。	毎年
	重点監視地区	生息密度の把握	糞粒法	毎年
			ルートセンサス	毎年
		捕獲個体調査	捕獲個体の繁殖および栄養状態に関するデータを収集する。	毎年
	周辺部	生息密度の把握	糞粒法	1回/5年

## ニホンジカの生息密度の推移と個体数調整による捕獲数の関係について

### 1. ニホンジカの生息密度の推移

大台ヶ原では平成13年度より糞粒法によるニホンジカ生息密度推定のための調査が始まり、その後、定点でモニタリングを目的とした調査が行われるようになったのは、平成16年度以降である。平成16年度以降の糞粒法によるニホンジカの生息密度の推移を見ると、平成17年度以降減少の傾向が見られた(図1)。

また、糞粒法により算出される生息密度には、ミヤコザサの生育状況(図2)の違いによって差が見られ(図3)、ミヤコザサが生育する地域で高密度、ミヤコザサが生育しない地域では低密度になる傾向が見られた。

### 2. 捕獲数の推移

大台ヶ原緊急対策地区におけるニホンジカの捕獲数は捕獲開始当初の平成14年度から平成16年度まで、25頭から48頭まで増加傾向にあった。しかし、平成16年度から平成18年度までは減少した。平成18年度から平成20年度にかけては増加傾向となり、平成20年度には44頭(3月暫定値)の捕獲が行われた(図1、表1)。

### 3. 生息密度と捕獲数の関係

生息密度の推移と捕獲数の推移には、明確な関係性はみられなかった。これまでのニホンジカ捕獲数は、「ニホンジカ保護管理計画」で定めた捕獲目標頭数に至っていない。糞粒法により推定される生息密度の低下の原因としては、捕獲作業による忌避効果、周辺地域での捕獲状況、ニホンジカの行動パターンの変化等、別要因が影響している可能性もあることから、引き続き生息密度を推定方法について検討する必要がある。

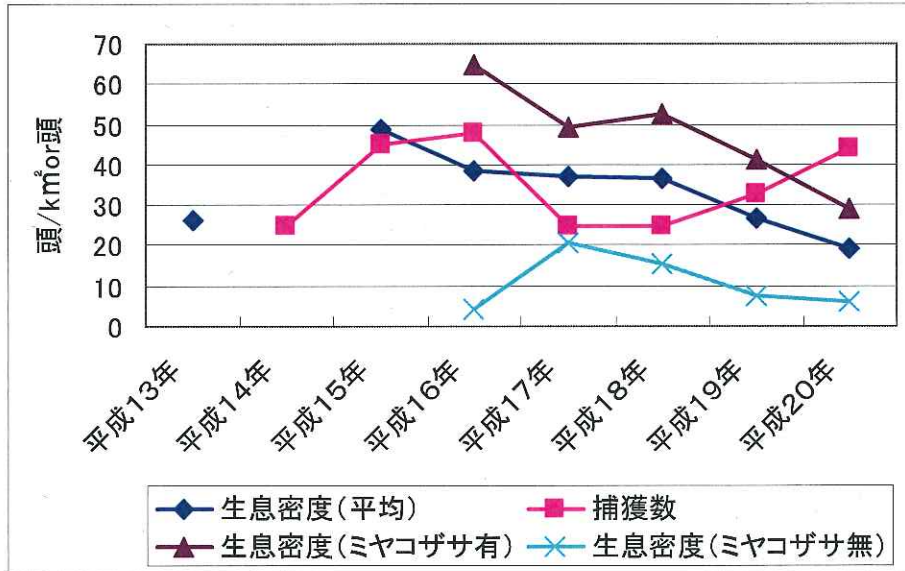


図 1 ニホンジカの生息密度と捕獲数の推移

表 1 平成 20 年度ニホンジカ捕獲方法別捕獲頭数および捕獲効率経年変化

	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
麻醉銃	18 (0.51)	35 (0.97)	34 (0.53)	21 (0.40)	16 (0.28)	15 (0.74)	3 (0.09)
アルパインキャプチャー	7 (0.20)	10 (0.28)	14 (0.22)	2 (0.04)	9 (0.16)	3 (0.16)	7 (0.20)
Box Trap	-	-	-	2 (0.04)	-	-	-
装薬銃	-	-	-	-	-	15 (0.44)	19 (0.43)
くくりわな試験	-	-	-	-	-	-	15 (0.50)
捕獲頭数合計 (頭)	25	45	48	25	25	33	44

( ) : 捕獲効率

麻醉銃、装薬銃の捕獲効率算出式 捕獲効率=捕獲数/銃丁数\*日

アルパインキャプチャー、BoxTrap の捕獲効率算出式 捕獲効率=捕獲数/わな基数

くくりわなの捕獲効率算出式 捕獲効率=捕獲数/作業員人数\*日

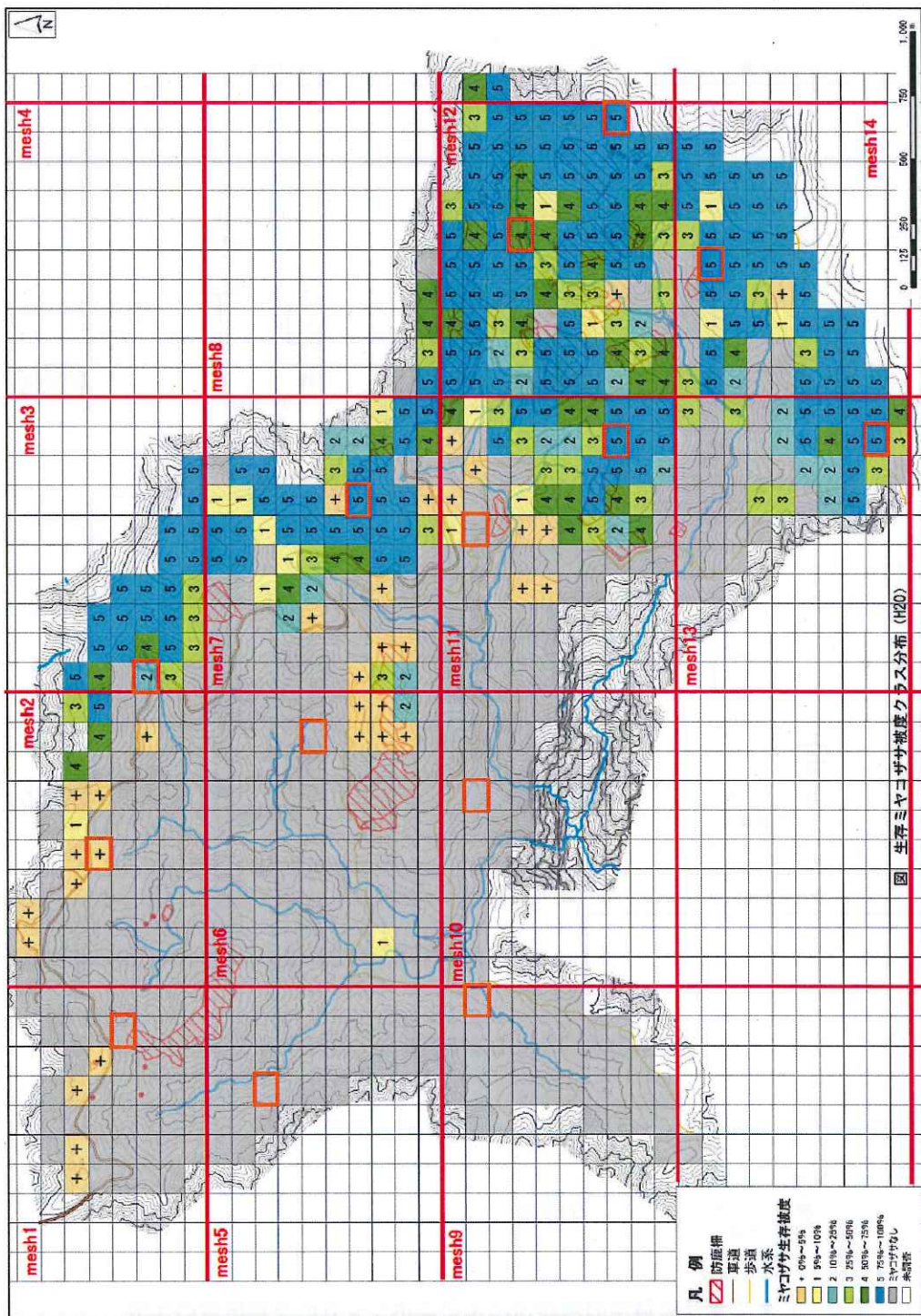


図 2 糞粒法調査地点とミヤコガサ生存被度の状況

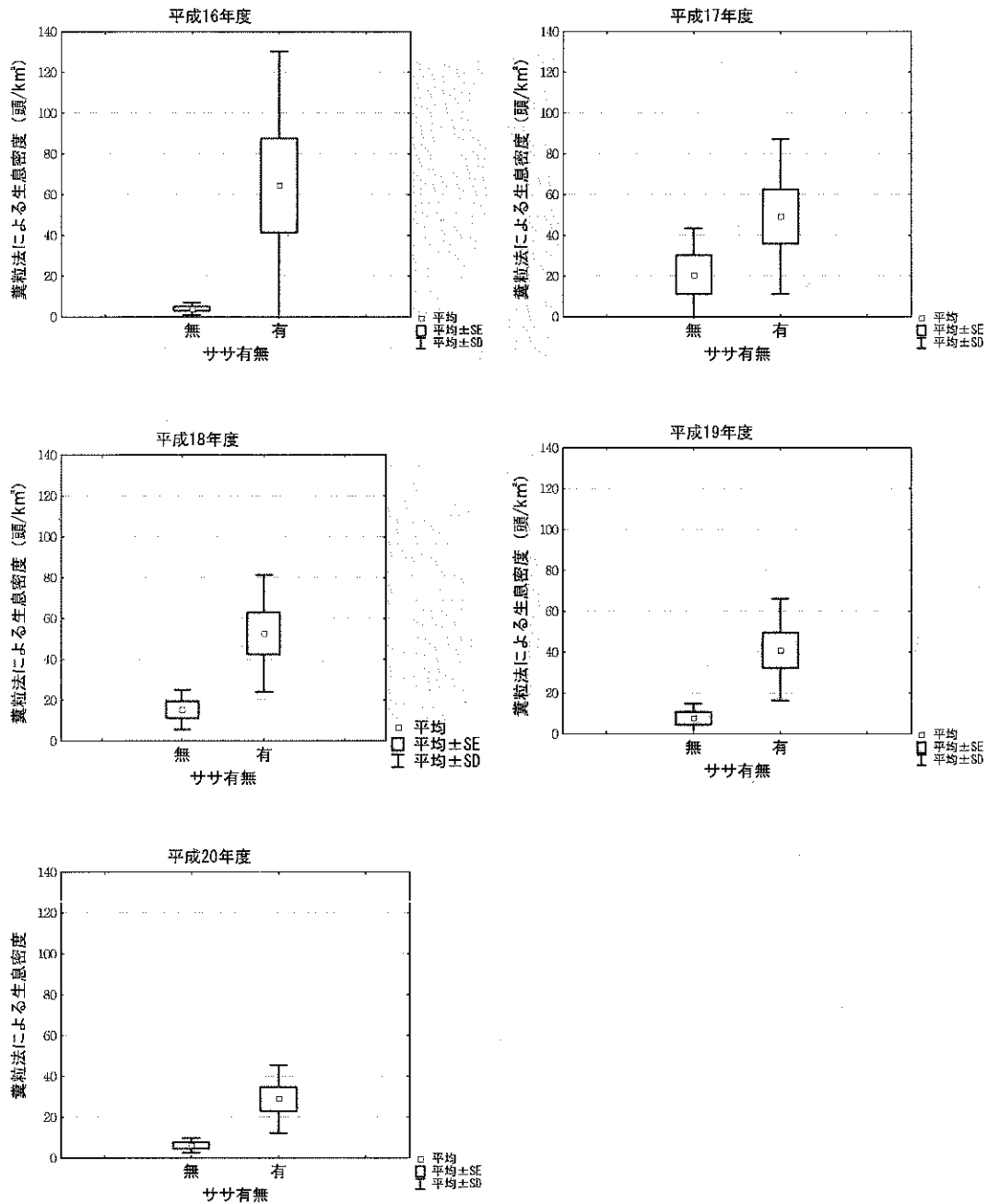


図3 ミヤコザサ有無別の糞粒法によるニホンジカの生息密度の比較

ササの有無は被度「-」と「+, 1, 2, 3, 4, 5」で区分

クラスカル・ウォーリス検定 同一年度内の「有」と「無」での密度で有意差  $p < 0.05$

#### 4. 生息数推定方法について

第1期計画及び第2期計画策定時における生息数推定方法は、ランダムサンプリングによる密度抽出を行い、西大台、東大台の地区別の平均生息密度に各対象面積を乗じた値を算出し、合計したものを推定生息数としていた（手法①）。

また、ニホンジカの利用可能な地域の面積や植生の状況等を考慮した生息数の推定を行うため、以下の2つの手法により生息数の試算を行った。

- 手法②：対象面積から防鹿柵の面積を除いた値を用いて手法①の方法で試算。

防鹿柵の設置面積の増加による生息地面積の減少を推定生息数に反映。

- 手法③：ミヤコザサの有無で層別ランダムサンプリングによる密度抽出を行い、防鹿柵を除いた面積で推定生息数を試算。ミヤコザサの生育状況に伴う生息密度の差を反映。

現行の算出方法と層別ランダムサンプリング法による生息数の推定結果を表2、図4に示した。両方法の推定頭数の推移の傾向はほぼ共通した。ただし、やや層別ランダムサンプリングの方が低い値を示した。

表 2 各方法による算出結果

年度	H16	H17	H18	H19	H20
手法①(現行の方法)	214	228 (+62)	221 (+18)	188 (-8)	136 (-19)
手法②(試算)	193	213 (+68)	199 (+11)	137 (-37)	102 (-2)
手法③(試算)	167	189 (+70)	176 (+12)	120 (-31)	88 (+1)
面積(km <sup>2</sup> )(柵面積除く)	6.367	6.327	6.278	6.244	6.210
捕獲数	48	25	25	33	44

- 面積はミヤコザサ植生調査メッシュから算出。柵面積を除く。
- ( ) 内:(当年度推定生息数)-[(前年度推定生息数)-(前年度捕獲数)]= 自然増減

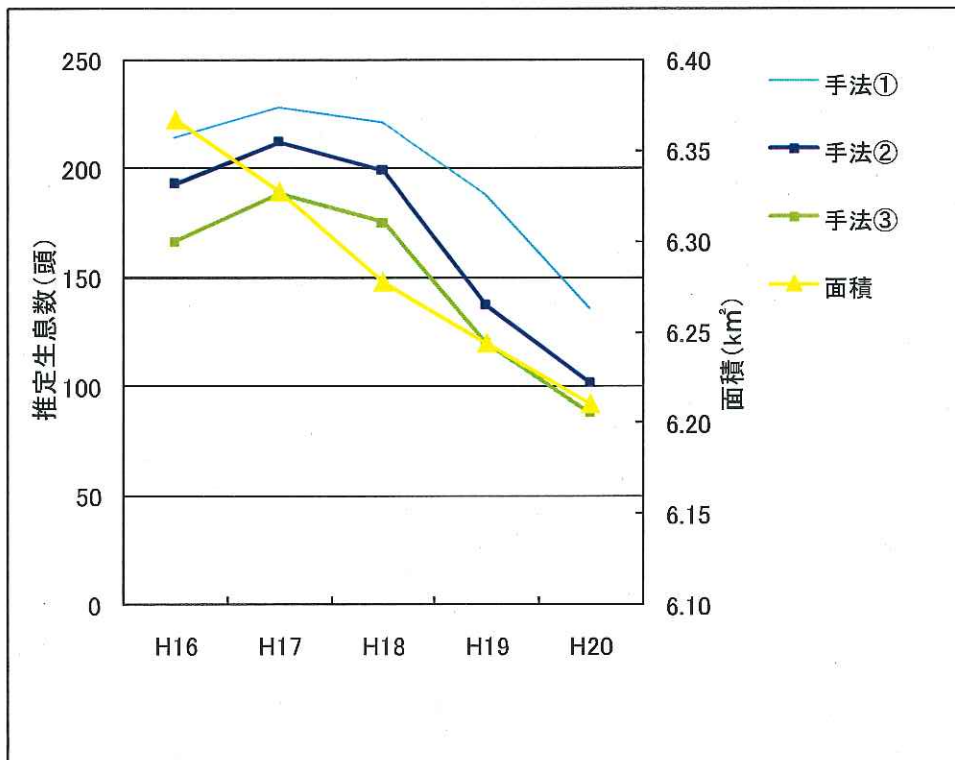


図 4 方法別の推定生息数の推移と柵外面積の推移

## 5. 目標生息密度の評価方法

第2期大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画では、「緊急対策地区の目標生息密度を約 10 頭/k m<sup>2</sup>に設定する」こととしている。図3で示されたように、地域によって著しい密度差がある緊急対策地区の生息密度をどのような手法及び条件で算出して評価するか検討の必要がある。

### 【具体的検討項目】

#### ①生息密度の評価方法

- ・各メッシュで算出された緊急対策地区での平均生息密度で評価する（現行の方法）。
- ・層別ランダムサンプリングを用いた密度面積法（山田・北田，1997）から算出した推定生息数を、防鹿柵面積を除いた面積で除した数値で評価する。

#### ②手法

##### ○糞粒法

累積滞在時間を反映するため、植生への影響指標として適している。しかし、利用のべ頭数のみを反映し、実頭数は反映しない。糞虫の影響が高い時期（夏期）は適さない。これまで通り毎年実施し、主な評価指標とする。



○区画法

時間断面を反映した実頭数が把握できる。過小評価になりがちなこと、見通しの悪い場所では実施困難であることが課題である。計画策定以前から実施されてきた手法であり、過去との比較手段として、今後も5年に1度の間隔で実施する。

○その他

糞塊法など、他手法による指標を行い、多角的にモニタリングすることを検討する。

③時期

○これまでの経緯から秋期に糞粒法等を実施し、指標とする。

○植生への影響がもっとも高まる夏期の評価方法を検討する。また、西大台の植生への影響を把握するためには春期の調査が適していると考えられるため、春期の評価方法も課題である。

【参考】

生息数推定算出方法の概略

■手法①

サンプリング：単純ランダムサンプリング

算出式：

推定生息数＝（東大台地区の面積×東大台地区の平均生息密度）＋（西大台地区の面積×西大台地区の平均生息密度）

■手法②

サンプリング：単純ランダムサンプリング

算出式：

推定生息数＝{(東大台地区の面積一柵の面積)×東大台地区の平均生息密度}＋{(西大台地区の面積一柵の面積)×西大台地区の平均生息密度}

■手法③

サンプリング：層別ランダムサンプリング

算出式：

推定生息数＝

$\frac{\text{ミヤコザサ生育地面積}}{\text{緊急対策地区面積}} \times \text{ミヤコザサ生育地の平均生息密度}$

$+$   $\frac{\text{ミヤコザサ非生育地面積}}{\text{緊急対策地区面積}} \times \text{ミヤコザサ非生育地の平均生息密度}$

$\pm 2 \times 9.5\% \text{信頼区間のT値} \times \text{標準誤差}$

標準誤差の算出方法は山田・北田（1997）参照

## 平成21年度個体数調整実施計画(案)

### 1. 捕獲目標頭数について

第2期大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画（計画期間：平成19年度～23年度）では、緊急対策地区の目標生息密度を約10頭/k㎡に設定し、早期（2～3年）で目標密度に低減させることを目標として個体数調整を実施してきた。今後の捕獲計画を検討するため、平成19、20年度の捕獲実績を「大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画第2期」の資料編に示した生息数シミュレーションの方法を用いて、再計算した。平成21年度は第2期計画の3年目となり、第2期計画に基づき目標生息密度を達成するための捕獲計画案を表1に示す。

利用者の安全性が確保できる捕獲期間に限られること等を考慮し、平成21年度の目標捕獲頭数は100頭とする。

表 1 推移行列を用いたシミュレーションによる捕獲計画案（現行の算出方法に基づき算出）

年度	【現行計画】 3カ年（H21）で 目標密度		【参考】 4カ年（H22）で 目標密度		【参考】 5カ年（H23）で 目標密度	
	推定生息数	捕獲数	推定生息数	捕獲数	推定生息数	捕獲数
平成18年度	221		221		221	
平成19年度	188	33(実績)	188	33(実績)	188	33(実績)
平成20年度	192	44(実績)	192	44(実績)	192	44(実績)
平成21年度	69	160	125	100	133	90
平成22年度	60	15	69	65	85	60
平成23年度	62	5	69	10	70	25

### 2. 個体数調整計画について

#### (1) 捕獲手法

平成20年度に引き続き、捕獲手法として装薬銃、集団捕獲わな（アルパインキャプチャー）、麻醉銃を用いる。また、平成20年度に試験的に導入したくくりわなも捕獲手法として用いる。

#### 【麻醉銃】

捕獲開始当初は、捕獲効率が0.5～1と高い捕獲効率を示したが、銃による捕獲に対する警戒心により近年極端に捕獲効率が低下している。性別や年齢などの選択的な捕獲が可能であり、発射音がほとんどしないことや、少人数で行うことが可能である長所もある。アルパインキャプチャー等他の捕獲手法と組み合わせて使用する。

### 【アルパインキャプチャー】

捕獲開始当初より、一時期を除き捕獲効率に大きな変動は見られない。選択的捕獲ができないという短所もあるが、他の作業と同時に稼働できることから、継続していく価値のある方法と考えられる。ただし、機材の老朽化が進行しており、引き続き実施するかどうかは検討が必要である。

### 【装薬銃】

比較的高い捕獲効率を示し、選択的捕獲も可能である。しかし、利用者の安全性の点からドライブウェイ閉鎖時期などの捕獲時期が限定される。捕獲効率の低下が確認されるまではこれまで通りの方法で実施が可能と考えられる。

### 【くくりわな】

試験捕獲の結果、比較的高い捕獲効率を得られている。しかし、選択的捕獲ができないこと等の短所があり、利用者の安全性の点からドライブウェイ閉鎖時期などに捕獲時期が限定される。

表 2 捕獲方法別の主な特徴

捕獲方法	平成 20 年度 捕獲効率	選択的捕獲	捕獲時期 の制限	準備期間
麻酔銃	0.09	可	無	短
アルパインキャプチャー	0.20	不可	無	設備があれば 「短」
装薬銃	0.43	可	有	長
くくりわな (試験)	0.50	不可	有	短

## (2) 時期

### ①装薬銃

ドライブウェイ閉鎖中の春期 (4月21日前まで) と晩秋期 (11月下旬～)

### ②集団捕獲わな (アルパインキャプチャー)、麻酔銃

ドライブウェイ開放期間は、装薬銃以外の従来の手法で捕獲を実施する。

### ③くくりわな

ドライブウェイ閉鎖中の春期 (4月21日前まで) と晩秋期 (11月下旬～)

## (3) 実施場所

奈良県吉野郡上北山村大字小椽 (東大台)

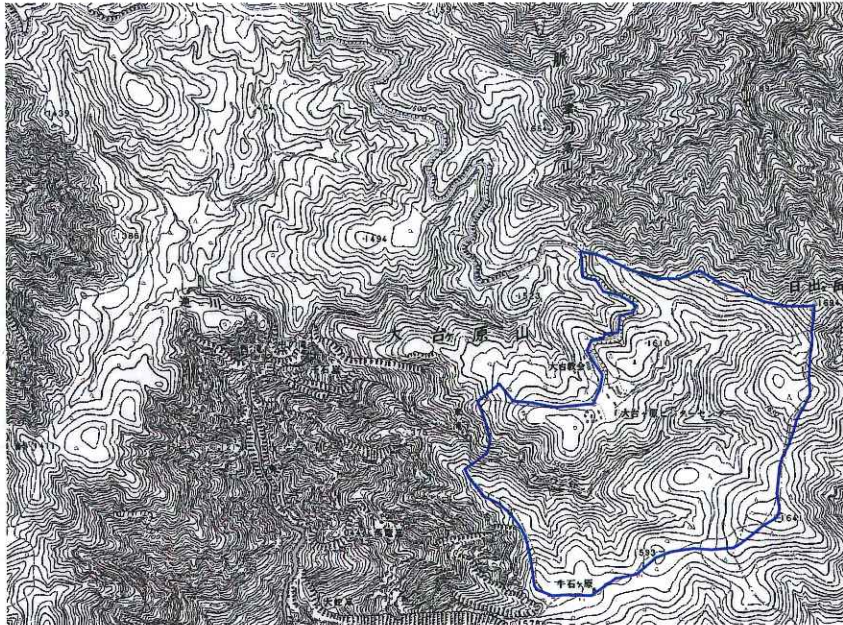


図1 個体数調整実施場所（線の枠内）

#### （4）達成状況の評価方法

達成状況の評価については、短期的には捕獲頭数及び生息密度、中長期的には植生の状況等による評価を検討する。

## 2. その他

過去のWG、部会、評価委員会で出た意見を踏まえ、以下の点についてWG及び部会で引き続き検討を行う。

### 《検討課題》

- ①夏期における個体群の状況のモニタリングについて
  - ・夏期の密度を推定する方法等について検討
- ②ニホンジカの生息密度と植生の関係に基づいた推定生息数の算出方法の検討
  - ・ミヤコザサの被度と生息密度の関係等を解析し、推定生息数の算出方法を検討
- ③GPS首輪によるニホンジカの行動調査について
  - ・ニホンジカの行動調査の結果の解析方針と、個体数調整を含めた自然再生への活用方法
- ④達成状況の評価方法の検討
  - ・中長期的な達成状況の評価法として、植生の状況に応じた達成状況の評価方法の手法検討を早期から実施
- ⑤西大台の個体の食性の把握

【参考】

次年度の各手法による捕獲の試算について

平成 21 年度目標捕獲頭数：100 頭

方法	日数	人数	捕獲効率	捕獲数	備考
装薬銃	10	10	0.43	43	人数は大台ヶ原の面積を考慮すると8~10人が最適
くくりわな	24	4	0.5	48	1人あたりのわな数は20基程度
麻酔銃	40	1	0.09	3	
アルパインキャプチャー	40	1	0.2	8	
合計				102	

捕獲効率の算出方法：

麻酔銃、装薬銃の捕獲効率算出式 捕獲効率＝捕獲数／銃丁数\*日

アルパインキャプチャー、BoxTrap の捕獲効率算出式 捕獲効率＝捕獲数／わな基数\*日

くくりわなの捕獲効率算出式 捕獲効率＝捕獲数／作業員人数\*日

(別紙)

### くくりわな試験捕獲の実施について (案)

#### ■目的

本年度、くくりわなによる試験を10月と12月の2回実施し、積雪前の12月の試験捕獲では15頭捕獲された。次年度くくりわなを効果的に活用するため、ゲート閉鎖期間中である3月末に雪解け後のシカの行動や捕獲状況を確認するため、積雪の状況に応じて可能な範囲でくくりわなの試験を実施する。

#### ■実施期間

積雪の状況に応じて、3月末に5日間程度実施

※注) わなが稼働しないほどの積雪があった場合は中止。

#### ■方法

- ・わなの種類：シシキラーを使用。
- ・設置場所：平坦地もしくは緩傾斜の地形で、ツキノワグマの出没の可能性が低い場所。
- ・シカの警戒状況を確認するため、赤外線自動撮影カメラ（動画）を6基設置する。
- ・毎日1回の見回りを早朝に行う。

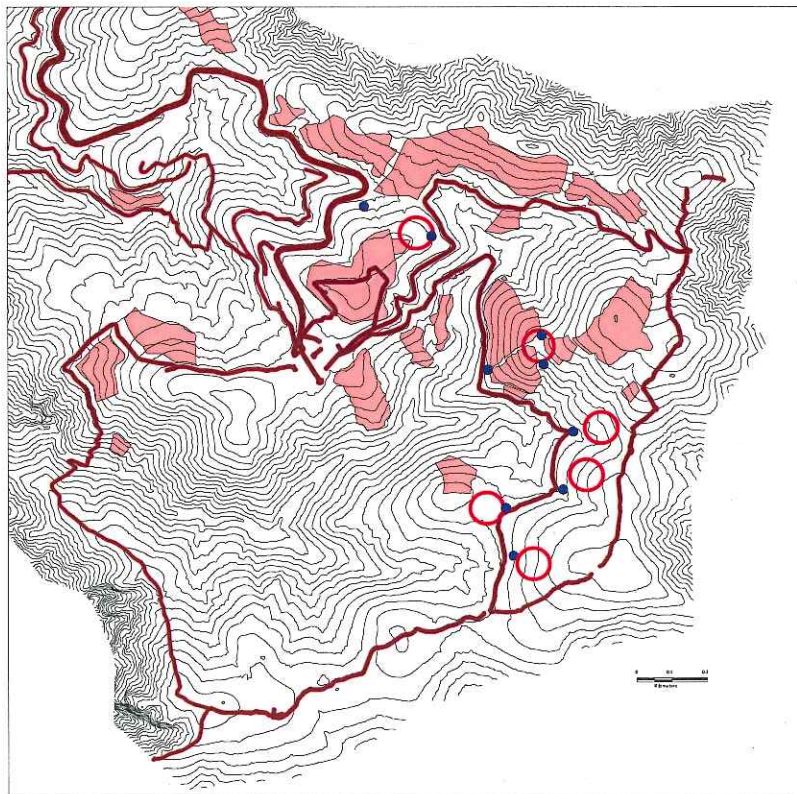


図1 試験実施予定区域

( ○ : わな設置予定区域 ● : くくりわな用注意看板設置予定地 ■ : 防鹿柵 )

## 新規捕獲手法等の検討計画について

### 1. 既存手法の改良、新規手法開発の必要性

麻醉銃を用いた捕殺を繰り返すとニホンジカ個体の警戒心が高まり、麻醉銃を用いた捕獲を行う昼間の目撃頭数は、捕獲を行わない夜間の目撃頭数を大きく下回り、捕獲効率は年々減少してきた。このような現象は装薬銃を用いた捕獲が行われる地域（乱場など）で見られる。今後、目標捕獲数を確保するためには、銃等の既存捕獲手法の捕獲効率を向上させるための検討、警戒心を抱かせない捕獲手法、あるいは夜間にも実施可能な捕獲手法、新規手法について検討を行う。

### 2. 既存捕獲手法の捕獲効率向上に関する案

#### 2-1. 麻醉銃

麻醉銃は射程距離が短いため（20～50m程度）、警戒心を抱いたニホンジカに命中させることは難しい。これまで実施してきた流し猟の形式での捕獲では捕獲効率の向上は望めない。ツリーシートの活用など、新しい手法での麻醉銃の活用を試みる。

#### 2-2. くくりわな

本年度実施した試験捕獲では、バネ式のくくりわな（シシキラー（商品名））を使用した。1人あたりの捕獲効率は高く（捕獲効率：0.50）、警戒心の上昇を抑制できれば今後も同程度の捕獲効率が期待できると考えられる。

今後、下記の点について検討を行い、捕獲の継続を検討する。

- 人、他種への安全性と、捕獲効率を考慮した捕獲に適した時期
- 捕獲効率を高めるためのわな設置位置（配置）
- 安全性の高いわなの種類
- 多数のわなの稼働を即時的に確認する方法
- 植生への影響の軽減策の検討

### 3. その他新規手法開発

#### 3-1. ドロップネット

平成19年度新規捕獲手法開発の項目として、ドロップネットの試行を行ったが、捕獲性の良いネット素材がなく、実用化には至っていない。ネット素材の課題が解決すれば、実用化の可能性のあることから、継続して検討を行う。

#### 3-2. 大型囲い柵の検討

本年度誘引試験で実施した装置（ビートパルプ、自動給餌装置）による効果は活用に値すると考えられる。

ビートパルプによる誘引は、物資調達が課題である（北海道での需要が高く入手困難）。



本年度は1個での実験を実施したが、今後複数個での誘引試験を実施し、相当数の個体の誘引の可能性が確認できれば、「大型囲い柵」等の大規模装置による捕獲における活用の可能性を検討する余地があると考えられる。

自動給餌装置による誘引における課題の一つは、ニホンジカ以外の種の誘引につながる点である。誘引試験時にイノシシが採餌していたことが確認されている。イノシシ以外にも採餌の可能性のある種は多数存在するため、実施の可否には十分な検討が必要である。

## 平成 20 年度大台ヶ原・大杉谷ニホンジカ保護管理連絡会議概要について

## 1. 会議設置の目的

連絡会議は、大台ヶ原・大杉谷地域の関係する機関相互の緊密な連絡と調整を図り、もって同地域のニホンジカの保護管理の円滑な推進に資することを目的とする。

## 2. 開催日時

平成 20 年 12 月 11 日（木）14:00 ～ 16:00

近畿地方環境事務所 会議室

## 3. 内容

## (1) 大台ヶ原・大杉谷地域における各機関の取組について

## ①環境省の取組について

- ・平成 20 年度の個体数調整の実施状況、誘引試験の結果、GPS 首輪による個体移動状況調査結果について紹介
- ・環境省の目標捕獲頭数の決定方法、生息数の推定方法について意見交換

## ②近畿中国森林管理局の取組について

- ・大杉谷国有林で実施されている「自然再生推進モデル事業」について紹介
- ・大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策指針検討ワーキングチームを 5 月に開催。
- ・平成 20 年度大杉谷国有林におけるニホンジカの生息状況及び森林被害の現況把握調査を実施。(ニホンジカの生息密度調査、森林衰退状況調査等)
- ・NPO 等との連携により、ラス巻き、防護柵の設置等を実施

## ③奈良県の取組について

- ・奈良県における鳥獣害対策事業について紹介
- ・野生鳥獣による農林水産物の被害防止対策を「人材の育成」、「生息環境の管理」、「被害の防除」、「個体数調整」の 4 つ分野を基本としてを実施
- ・「人材育成」の分野では、地域の指導者の育成として平成 19 年度から実施しており、県内で 200 名の育成を目標としている。
- ・奈良県内のニホンジカの推定生息数は約 6 万頭。目標生息密度は鳥獣保護区内で 5 頭/km<sup>2</sup>、鳥獣保護区外で 2 頭/km<sup>2</sup>、年間目標捕獲頭数を 8,000 頭に設定
- ・捕獲圧を高めるため、特定鳥獣保護管理計画を改訂し、猟期を延長

④三重県の取組について（資料のみ）

- ・三重県におけるニホンジカ対策に関する取組について報告
- ・平成 18 年度調査時の推定生息数約 53,000 頭。平成 23 年度までに生息密度を 15.7 頭/km<sup>2</sup> から 3 頭/km<sup>2</sup> に低減
- ・平成 19 年度の捕獲実績は、狩猟捕獲で 6,162 頭、有害捕獲で 1,817 頭、計 7,979 頭

⑤上北山村の取組について

- ・上北山村における鳥獣被害防除事業について紹介
- ・銃器による駆除を補助対象として、有害鳥獣駆除を実施
- ・平成 19 年度のニホンジカの捕獲数は、オス 44 頭、メス 72 頭、計 116 頭
- ・鳥獣捕獲奨励金があり、サルは 30,000 円、シカは平成 17 年度で終了。

⑥川上村の取組について

- ・川上村における鳥獣被害防除事業について紹介
- ・有害駆除で平成 19 年度 260 頭、平成 20 年度は 180 頭（10 月 31 日時点）のニホンジカを駆除
- ・主な捕獲方法は、銃器による捕獲。一部わなも使用
- ・ニホンジカの駆除買上金は、平成 19 年度は 1,300,000 円（5,000 円× 260 頭）、平成 20 年度は 900,000 円（5,000 円× 180 頭）

⑦大台町の取組について

- ・大台町における有害鳥獣捕獲等について紹介
- ・有害駆除で平成 19 年度 45 頭、平成 20 年度は 175 頭、狩猟では平成 19 年度 213 頭を捕獲
- ・主な捕獲方法は銃器で、一部箱わなを使用
- ・奨励金はニホンジカ 5,000 円、イノシシ 5,000 円、ニホンザル 10,000 円

(2) 情報共有の在り方について

- ・今後それぞれの調査結果等を有効に活用するため、どのような情報を共有すればよいかについて意見交換を実施
- ・環境省と林野庁の調査でニホンジカの生息密度調査を実施しており、それらのデータを共有してはどうか。
- ・奈良県でも平成 20 年度から基礎調査を開始しており、その結果をふまえて各市町村ごとの目標生息密度と目標捕獲頭数を設定予定。
- ・各市町村で捕獲された場所のポイントデータのようなものはあれば有効活用できる可能性がある。
- ・情報共有及び連携のあり方を検討するの場として設置された会議なので、今後もし是非協力をお願いしたい。